

平成27年度研究成果報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	35	都道府県・ 指定都市名	山口県	研究課題番号・校種名	2 高等学校
				教科名	農業
研究課題	新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究 ○将来の地域産業や地域農業を支える人材育成に資する農業科教育の在り方についての研究 ①座学と実験・実習を密接に関連付けた指導方法等の工夫改善 ②原則履修科目「農業と環境」（※以下，「農業と環境」）における学習状況の把握に資する調査研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	やまぐちけんりつやまぐちのうぎょうこうとうがっこう 山口県立山口農業高等学校（479人）				
所在地（電話番号）	〒754-0001 山口県山口市小郡上郷 980-1 電話：083-972-0950 FAX：083-972-0801				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.yamaguchi-a.ysn21.jp/">http://www.yamaguchi-a.ysn21.jp/</a>				
研究のキーワード ○「身に付けさせたい力」の明確化 ○指導方法，評価方法の改善 ○実践力の育成					
研究成果のポイント ○「育てたい生徒像」・「目指す進路先」を整理し，「身に付けさせたい力」を作成することで，学習活動全体の方向性を明確にすることができた。また，教員の指導や座学と実習を連携させた取組が統一感をもって展開しやすくなった。 ○「農業と環境」の「到達目標」を作成することにより，指導のポイントが明確になり，生徒の学習意欲の喚起，教員の授業力の向上につながった。 ○年間指導計画や評価規準を見直すことにより，科目の目標に沿った指導計画が作成でき，指導と評価の一体化を図ることができた。 ○観点別評価方法の改善により，生徒一人一人の学習内容の定着状況が把握でき，観点別評価の指針ができた。 ○山口農業高校版（以下，山農版）ルーブリック評価を作成・実施し，授業に対する課題を生徒と教員で共有しやすくなった。					

1 研究主題等

(1) 研究主題

将来の地域社会を担う人材育成に資する専門教育の在り方についての実践研究  
 ～生徒に「身に付けさせたい力」の明確化と指導方法，評価方法の改善～

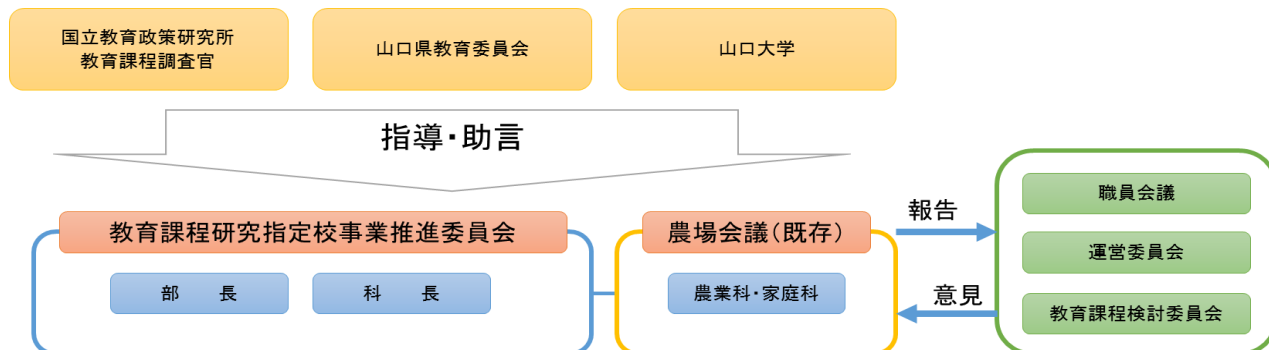
(2) 研究主題設定の理由

本校は平成27年に開校130周年を迎えた伝統ある農業高校であり，これまで，山口県内の地域産業を担う人材を輩出してきた。現在は，生物生産科，食品工学科，生活科学科，環境科学科の4学科であり，それぞれの学科の特色を生かした教育を行っている。

しかし，地域経済の停滞や農業を取り巻く情勢の変化に伴い，農業や農業関連産業の学科の専門性を生かした職業に従事する卒業生は減少してきた。また，入学してくる生徒の能力・適性，興味・関心も多様化しており，生徒の学習ニーズの幅も広がっている。このため，生徒の卒業後の進路は多様であるとともに，在学中に明確な進路目標を見出せない生徒も増えてきている。

このような中、生徒の実情に応じた専門教育を行うために、その学習教材の工夫や座学と実験・実習を密接に関連付ける等の指導方法の改善と、生徒の進路に結び付く教育の展開が課題である。そこで、4学科全てにおいて、将来の地域社会を担う人材を育成するために、生徒に「身に付けさせたい力」を明確にし、そのための指導方法、評価方法の改善を図ることを研究の目的とした。

### (3) 研究体制



### (4) 2年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学科の「育てたい生徒像」「目指す進路先」「身に付けさせたい力」の明確化</li> <li>○「農業と環境」の「身に付けさせたい力」の作成</li> <li>○「農業と環境」年間指導計画の作成と評価規準の見直し</li> <li>○「農業と環境」研究授業、プロジェクト発表会の実施</li> <li>○生活面のアンケート調査</li> <li>○資格取得指導計画の見直し</li> <li>○若年自営者の講演</li> </ul>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「身に付けさせたい力」の明確化</li> <li>○「農業と環境」に関する学習実現状況調査及び生徒アンケートの実施</li> <li>○「農業と環境」研究授業、プロジェクト発表会の実施</li> <li>○農業学習の心得の作成</li> <li>○資格取得指導計画の見直し</li> <li>○若年自営者の講演</li> </ul>

※教育課程研究指定校事業（文部科学省、連絡協議会：5月、研究協議会：2月）

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ① 「身に付けさせたい力」の明確化
  - ア 学科の特色、地域社会のニーズ、過去の進路状況を踏まえた「育てたい生徒像」「目指す進路先」の見直し
  - イ 「目指す進路先」を実現するための「身に付けさせたい力」の検討
- ② 指導方法、評価方法の改善
  - ア 「農業と環境」における座学と実習を密接に関連付けた指導方法、評価方法の改善
  - イ 科目の到達目標作成
  - ウ 山農版ルーブリック評価の導入
  - エ 4学科の「農業と環境」の一斉指導
- ③ 実践力の育成
  - ア 農業学習の心得の作成と生活面のアンケート調査
  - イ 資格取得の指導計画の見直し
  - ウ 若年農業従事者の講演会、学習発表会の実施

## (2) 具体的な研究活動

### ① 「身に付けさせたい力」の明確化

- ア 学科の特色、地域社会のニーズ、過去の進路状況を踏まえた上で、学科毎の「育てたい生徒像」・「目指す進路先」を見直し、「身に付けさせたい力」を検討した。
- イ 「身に付けさせたい力」の概略図を作成して教職員に周知した。

### ② 指導方法、評価方法の改善

- ア 「農業と環境」における指導方法、評価方法の改善
  - ・年間指導計画の見直しを行い、各単元の観点別評価規準・評価割合を見直した。
  - ・見直した評価規準・評価割合から学習の実施状況をまとめた。
  - ・生徒に学習目標を示すため、各単元または題材毎に「身に付けさせたい力」を作成した。
  - ・大学教授、県内の農業教員を招いて、座学と実習の両方の研究授業を実施した。
- イ 科目の到達目標作成
  - ・科目の到達目標を単元毎に作成し、学習目標と評価の提示を行うことにより、生徒が学習に目標を持って参加することができるようにした。
- ウ 山農版ルーブリック評価の導入
  - ・平成26年度は、4学科の全専門科目で共通して使えるように、座学用・実習用・実験用の3種類の山農版ルーブリック評価表を作成した。評価規準の絞り込みを行うとともに、実施回数を限定するなど、評価が煩雑にならないように工夫し、生徒理解及び授業改善に役立てた。
  - ・平成27年度は、授業内での座学と実習、座学と実験という展開を踏まえ、評価基準の内容を見直して3種類の評価表を一つにまとめ、本時の到達目標の欄を加えることで、生徒及び教員が共に評価しやすくした。
- エ 4学科の「農業と環境」の一斉指導
  - ・4学科の「農業と環境」を同一時間割で実施することにした。
  - ・生産系と環境系の教員が相互乗換で授業を行うことにした。
- オ 学習発表会の実施
  - ・全ての学科で「農業と環境」のプロジェクト発表会を実施予定（3学期）。

### ③ 実践力の育成

- ア 農業学習の心得の作成と生活面のアンケート調査
  - ・実習心得を見直し、座学も含めた「農業学習の心得」を作成した。
  - ・生活面、学習面全般に関するアンケートを実施した。
- イ 資格取得の指導計画の見直し
  - ・受験できる全ての資格について指導計画を見直し、冊子とした。
- ウ 若年農業従事者の講演会、学習発表会の実施
  - ・農業祭のイベントとして、平成26年度は、「日本における農業と経営 農業は立派な職業」、平成27年度は「農業から学ぶ 夢、目標、命の尊さ」と題して若年農業従事者の講習会を実施した。

## 3 研究の成果と課題

### (1) 成果

- 「育てたい生徒像」「目指す進路先」を見直し、「身に付けさせたい力」を作成したことにより、指導目標が明確になり、指導の方向性がはっきりとし、全専門科目の指導計画作成の指針ができた。
- 「育てたい生徒像」「目指す進路先」「身に付けさせたい力」の見直しや概念図の作成を進めることにより、教員の指導や座学と実習の連携した取組が統一感をもって展開しやすくなった。
- 単元毎の指導計画や評価規準を見直すことにより、科目の目標に沿った指導計画が作成でき、指導と評価の一体化を図ることができた。

- 観点別評価方法の改善により、生徒一人一人の学習内容の定着状況が把握できた。また、観点別評価の指針ができた。
  - 「農業と環境」の到達目標を作成し、生徒に学習の目標を示すことにより、学習意欲の喚起につながった。また、指導のポイントが明確になり、指導計画の作成や実際の指導の場面においても、ポイントを絞った指導がしやすくなった。
  - 農業学習の心得作成により、教員の共通理解を再確認し、指導に当たることができた。
  - 4学科の「農業と環境」を同一時間割に組み、稲作を実施し、全科共通の内容で指導ができた。
  - 生産系と環境系の教員が相互乗換で授業を行い、より専門的な授業を行うことができるとともに生活面においても指導がしやすくなった。
  - 時間厳守を徹底するために、始業開始チャイムの前に音楽放送を流したことにより、生徒の「時間厳守」に対する意識が高まり、習慣付けにつながった。
  - 生徒に身近な年齢の講師を招いた講演では、専門的知識・技術を深め、実習の大切さを学ぶ機会となった。
- 
- 山農版ルーブリック評価の実施により、生徒の学習意欲や定着状況がきめ細かく把握できるようになった。また、生徒と教員が授業に対する課題を共有し、生徒と教員が同じベクトルをもって授業に望めるようになった。
  - 座学と実験・実習を密接に関連付けた指導に、記録簿の重要性を再認識した。また、記録簿では、全科に共通した評価項目を入れ、各教科の評価の統一性を図った。
  - 生活アンケートを実施することで、授業以外の時間における生徒の状況も把握でき、学習習慣に関する課題が明確になった。また、クラス単位での自主学習ノートを実施するクラスが増加した。

## (2) 課題

- 今後も地域や生徒のニーズに合わせた「身に付けさせたい力」を見直し、生徒に定着させるための指導方法について研究を進めていく。
  - 年間指導計画の見直し、学習の実施状況をまとめたことにより、生徒の学習における興味・関心や学習の到達度を把握することができた。さらに、科目の到達目標「身に付けさせたい力」の定着についても検証する。
  - 生徒に主体的な学習態度を身に付けさせるために、農業学習の心得の徹底を図り、より具体的なルールづくりの研究を進める。
  - 今後もより地域交流を充実させ、生徒自らの専門性を深めるとともに、異世代との触れ合いによるマナーや人間関係能力の向上を図る。
  - 若年農業者の講演会、先進農家の視察等を行い、地域産業に関する理解を深め、将来の地域社会を担う人材育成に努める。
  - プロジェクト学習を充実させ、生徒の専門性を深め、課題解決能力の向上を図る。
  - 地域や中学校へ取組を発信し、農業学習についての理解を深める。
- 
- 山農版ルーブリック評価をよりスムーズに活用するために、評価表や評価方法を改善する。

## (3) 指定期間終了後の取組

本校は、1年目は現状把握と計画・準備、2年目に実施・見直しを行った。本事業に取り組んだ結果、4学科全てにおいて共通学習・一斉指導、教員の相互指導の実施と全科目における指導方針の共有と指導・評価の見直しを行った。

今後も本研究の取組を継続して行い、アンケートを定期的に行いながら生徒の実態を把握し、「身に付けさせたい力」の定着を図っていききたい。

また、生徒が専門性を生かした進路実現ができるよう、授業や評価方法の改善に取り組んでいきたい。